

思いを一つに

浪江町長 馬場 有

真夏日が続く、暑さの疲れが出てくる季節ですが皆さまお元気でお過ごしでしょうか。

私は、夏を乗り越えるために十分な睡眠・こまめな水分補給・ラジオ体操をして健康維持を心掛けています。

町は、6月から7月にかけて県内外の8か所で住民懇談会を行い、延べ1,200人を超える皆さまにご出席いただきました。町からは、有識者の方々による検証結果の報告書の概要を説明した後、避難指示解除に関する考え方を国等から説明していただき、意見交換会が行われました。皆さまの様々な考えや浪江に対する愛着の思いを聞くことができ、その思いを行政へ反映していかなければと感じた住民懇談会でした。

意見交換会では、放射線による健康リスクへの懸念の声が多くあげられました。放射線リスクについては、放射線量の数値がいくつ以上が危険で、いくつ以下なら安全という判断が専門家の間でも分かれています。国は、ICRP（国際放射線防護委員会）の発表した20ミリシーベルトを基準として判断していますが、私たちが長期的に目標としているのは、あくまでも震災前の状況に戻すことです。

しかし、その達成には相当の時間がかかるのもまた事実であります。

町としては、専門家の意見も聞きながら、線量低減に向けた取組みを検討していきたいと考えております。現在、町で配布しているバジジ式線量計やホールボディカウンターなどによる健康管理に加え、相談窓口の設置や相談員の配置、放射線の勉強会を実施するとともに、国に対しては除染の要望等を行い、皆さまの放射線に対する不安の解消へとつなげる対策を引き続き進めていきます。

一方で、「どこに住んでいても浪江町民」というアイデンティティはこれからもずっと維持していきたいと思えます。様々な事情

で相当期間は帰れないという方も、お盆やお彼岸には浪江町にきてお墓参りができるような環境を整えてまいります。

町外で生活を続ける皆さまのための施策としては、二本松市油井字石倉地内に仮設診療所を整備します。この診療所は復興公営住宅敷地内にあり、生活サポート施設と集会所も併設予定です。さらに、交流館を利用しながら、町民との絆を深める交流会を数多く行い、情報発信の場として活用してまいります。

町は、来年春の避難指示解除を目標としています。まず、インフラ・生活環境整備のハード面を今年度中には形にしなければなりません。併せて、復興公営住宅、賃貸住宅を含めた住環境の整備も並行して行っています。浪江町にとって、帰町へ向けた復興のスタートはこれからです。これからの5年がまちづくりの正念場となるでしょう。震災前のような21,000人の町でなくても、町民が苦難から立ち上がり、皆が笑顔で生活している町を目指して、復旧・復興へと力を傾注していく所存です。

復旧・復興作業は、低線量の避難指示準備区域・居住制限区域から先行して進んでいます。帰還困難区域を置き去りにしている訳ではありません。国へは除染計画の策定を要望し、震災前の生活が一日も早く取り戻せるよう、地区代表者の方と拠点づくりについての検討を進めています。浪江の復興は、あくまでもオール浪江です。したがって、低線量区域の避難指示が解除されても、帰還困難区域が帰れるようになるまで帰町・帰還宣言はしません。

復興は町行政だけではいくら頑張っても、成し遂げられません。住民一人一人が希望を見出し、その希望を夢で終わらせず実現できるような町を創建していくために、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

まだまだ暑さが厳しいので体調をくずされませんようお体をご自愛ください。